

(報告) 大阪・関西万博で日本の“洋食”をテーマとした特別展示開催中
ー14日(土)・15日(日)の週末限定で一口カレーライスの試食を提供！展示は6月15日まで

2025年6月12日

日本食品海外プロモーションセンター (JFOODO)

日本食品海外プロモーションセンター (以下、JFOODO) は、2025年6月8日(日)から6月15日(日)まで開催されている2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)のテーマウィークプログラム「RELAY THE FOOD～未来につなぐ食と風土～」(EXPO メッセ「WASSE」)にて、日本の“洋食”をテーマに、日本産食品等の奥深い魅力を知って理解を深めていただける展示「世界にはばたけ！Tasty Japan！」(英語タイトル Tasty Japan: Flavors in Harmony)を実施しております。

初日の6月8日(日)には、1,310名(推計・暫定)の方にお越しいただき、一口カレーライスの試食や大人気のオリジナル食品サンプル展示を中心に、賑わいを見せております。



展示ブースを見る来場者 (JFOODO 撮影)



ミニクイズイベントに参加する来場者 (JFOODO 撮影)

展示ブースは、日本へ西洋料理が伝来した明治時代の洋食レストランをイメージし、郷土料理研究家の青木ゆり子氏の監修によるパネル展示や、5つ星お米マイスターの片山真一氏がプロデュースした一口カレーライスの試食、日本の果物の美味しさを凝縮したフルーツジュースの試飲を提供しています。さらに、“洋食”に関するミニクイズイベントを通じて、日本の“洋食”の歴史や海外への広がりを来場者に伝えています。

● 来場者の様子

海外からの来場者からは「日本の食文化への関心が高まった」、「展示内容を家族や友人にも紹介したい」との声をいただきました。また、今後の訪日時には展示で紹介された料理や食材を食べて見たいとの声も多く、展示パネルのQRコードの読み取り情報を求める姿も見られました。

● JFOODO 執行役 北川浩伸のコメント

外国の料理に対する消費者の理解は、一朝一夕に深まるものではなく、段階的な認識の向上が求められる。日本食の「初級編」が寿司をはじめとする伝統的な和食だとすると、今回は、寿司を経験したことのある海外の消費者に向け、日本食の「中級編」として「洋食」をテーマに設定した。訪日外国人旅行者の増加や海外の日本食レストランの拡大に伴い、日本食を口にする機会は世界中で広がっている

ことから、日本の洋食を改めて見つめ直すことで、日本食文化の奥深さを再認識していただけたという手応えを感じた。

<開催概要>

- 展示時間 : 2025年6月8日(日)から6月15日(日)までの8日間
10:00~20:00 (19:00 最終入場)
- 展示場所 : EXPO メッセ「WASSE」イベントホール南側
「多様性をつなぐ」エリア: 輸出 (Export) ブース
- 試食・試飲: フルーツジュース 2025年6月12日(木)、13日(金)
一口カレーライス 2025年6月14日(土)、15日(日)
(動物由来原材料不使用で、ベジタリアン、ヴィーガンの方にも美味しく召し上がっていただけるカレーを提供します)
※試食・試飲の各日開始予定等は当日ブースでご確認ください
- ミニクイズ: 日本の洋食や日本産食品に関するミニクイズイベントを実施。
クイズの参加者や全問正解者には、ポストカードや缶バッジをプレゼント。



「缶バッジ」イメージ



「ポストカード」イメージ

■日本食品海外プロモーションセンター (JFOODO) 執行役 北川浩伸



1989年日本貿易振興会(当時)入会。ロンドンセンター、総務部総務課長、サービス産業部長、ハノイ事務所長などを経て日本貿易振興機構(JETRO)理事。2019年10月ベトナム政府より「ベトナムの投資計画事業への貢献」に対し表彰を受ける。NHK「クローズアップ現代」などTV番組での解説の他、OECD、経済産業省、外務省、日本経団連、経済同友会、業界団体、企業などでの講演多数。慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位満期取得退学。長崎県公立大学法人連携教授。

■日本食品海外プロモーションセンター (JFOODO)



JFOODO は、日本産の農林水産物・食品の輸出拡大とブランディングのためにオールジャパンでの海外消費者向けプロモーションを行っています。

JFOODO では、年度ごとのプロモーションの実施に先立ち、インターネットや文献、現地からの情報、業界団体などとの意見交換、継続したテーマであれば前年度のプロモーションの実施を通じて得た情報などを踏まえて、マーケティング戦略を策定しています。